



**東京稲門グリークラブ  
第6回 定期演奏会**

2014年 **5月10日(土)**

開場：午後1時30分 開演：午後2時

**ティアラこうとう** (江東公会堂) **大ホール**



## ご挨拶

本日はお忙しい中、私どもの演奏会にご来場賜り心より御礼申し上げます。  
東京稲門グリークラブは、2002年の設立以来隔年に定期演奏会を開催して参りましたが、本日、ティアラこうとうで第六回の定期演奏会を開催致します。これもひとえに皆様方のご支援のお陰と深く感謝申し上げます。

我々、前回定演(2012年5月)以降の2年間いろいろな経験を積んで来ました。昨年は、2月にインドネシア演奏旅行を実施、ジャカルタ市ではジャカルタ稲門会の皆様の熱烈なご支援を頂き、バンドン市ではパラヒャンガン大学混声合唱団とのジョイント演奏会を開催しその質の高い合唱に魅了されました。6月と9月には小林研一郎先生の指揮での「水のいのち」の演奏会に参加して、合唱の“ふかみ”を感じ取りました。本日は、それらの総決算として、さらに、新たな挑戦もメニューに入れ込んでの演奏となります。本日のメインディッシュはオペレッタでございます。皆様のお口に合うかどうか、心配な面はありますが、この2年間の僅かな(?)成長をご覧いただけたら幸いです。

さあ、間もなく始まります、最後まで、残さず、すべてご堪能下さい。  
本日は誠にありがとうございました。

東京稲門グリークラブ 幹事長 熊谷恒人

## メンバー

### トップテナー

安斎 眞治  
貝塚文一郎  
小林 祥郎  
斉藤 利美  
佐藤 宗治  
清水 透  
清水 稔夫  
清水 實  
長澤 護  
平林 義典

### セカンドテナー

江澤 孝政  
大山 重雄  
越田信市郎  
佐藤 拓  
白井 猛  
館野 美久  
前澤 勝  
正木 規之

### バリトン

石山 忠弘  
熊谷 恒人  
小岩 寿樹  
近藤 芳明  
阪口 達也  
島崎 憲利  
多奈部純一  
藤沢 行雄  
星 賢太郎  
山本 雄二

### ベース

江連 孝雄  
加納 豊隆  
川島 基成  
島田 信平  
清水 卓爾  
田摩 勇  
辻田 行男  
馬渡 晴男  
溝田 俊二  
安野 秀明  
和田 清

## プログラム

### 第1ステージ 指揮 佐藤 拓

Hototogisu (古今和歌集より)

作曲 Jonas Tamulionis

### 第2ステージ 指揮 小林祥郎

“心のふるさと”へご案内

編曲 丸山はるお

Take Me Home, Country Roads

作曲・作詩 John Denver ほか

遠くへ行きたい

作曲 中村八大 作詩 永 六輔

いい日旅立ち

作曲・作詩 谷村新司

Pearly Shells

ハワイアン・ポップス 作詩 Webley Edwards

ヘッドライト・テールライト

作曲・作詩 中島みゆき

Torna a Surriento 帰れソレントへ

作曲 Ernesto De Curtis 作詩 Giambattista De Curtis

### 第3ステージ 指揮 小林祥郎

男声合唱組曲「富士山」

作曲 多田武彦 作詩 草野心平

- I 作品第壱    II 作品第肆  
III 作品第拾陸    IV 作品第拾捌  
V 作品第弐拾壱

休憩

### 第4ステージ 指揮 佐藤 拓

ソプラノ 湯浅桃子 ピアノ 野間美希 ヴァイオリン 長野 充

マリツァをめぐる男たち ~オペレッタ「伯爵令嬢マリツァ」より

作曲 エメリッヒ・カールマン 編曲 向川原愼一 訳詩・台本・演出 角 岳史

Ouverture

陽が沈み夜になり

聞こえるジプシーヴァイオリン

行こう! ヴァラシュェイン

さあ、ジプシー!

どうかこたえて

フィナーレ

## ステージ紹介

### 第1ステージ Hototogisu .....

早稲田大学グリークラブの創立 100 周年の記念に、リトアニアの作曲家ヨナス・タムリオニス氏より献呈された作品。無伴奏で最大 6 声部。初演は稲門グリークラブ（指揮：佐藤拓）によって、2008 年 11 月 22 日サントリーホール大ホールで行われた。

歌詞は『古今和歌集』の賀歌（がのうた）の一首で、紀友則の作と伝えられる以下の歌である。

めづらしき 声ならなくに ほととぎす  
ここの年を 飽かずもあるかな

（ほととぎすは毎年鳴いているので、とりわけ珍しい声でもないのに、よく何年も飽きずに聞いていることだ）

連続する 7 度や 9 度の和音、シンコペーションの多いリズムが特徴的で、和風で雅な旋律で始まり、重厚なハーモニーとアルペジオのような言葉の分散を経て、ギターをかき鳴らすような情熱的なセクションに至り、堂々とした C dur の和音で締めくくられる。（佐藤 拓）



【作曲者】ヨナス・タムリオニス Jonas Tamulionis

1949 年、リトアニアのアリュトウス生まれ。ヴィリニユス教育大学、同音楽院を卒業し、リトアニア作曲家協会の事務局長、一等書記官を歴任した。国内外の 40 以上の作曲賞を受賞しており、作品数も 300 を越え、特にギター、アコーディオン、合唱、子供のための作品に力を注いでいる。親日家であり、早稲田グリー、東京混声合唱団など日本の合唱団からの委嘱で書かれた曲もある。

### 第2ステージ “心のふるさと” へご案内 .....

「月日は百代の過客にして、行かふ年も又旅人也」という芭蕉の言葉もあるとおり、平均年齢ではとうに還暦をすぎている団員にとっては、すべてが旅の思い出という感慨です。そこで本日は我々にとって思い出深い曲を、空間、時間を超えてお届けします。

#### 「Take me Home, Coutry Roads」

1971年、ジョンデンバーが歌って大ヒットした、カントリーミュージックです。ウェストバージニア州の代名詞的な楽曲となっていますが、実は、歌に出てくる山や川はほとんどお隣のバージニア州にあります。

#### 「遠くへ行きたい」

1962年、NHKの「夢であいましょう」でジェリー藤尾が歌って大ヒットしました。旅番組のテーマ曲になったり、いろいろな人がカバーしている名曲です。

#### 「いい日旅立ち」

1978年、国鉄の旅行誘致キャンペーンの曲として、山口百恵が歌い広まりました。2007年には「日本の歌 100 選」に選ばれています。

#### 「Pearly Shells」

1960年代に広まったハワイアンポップス。オアフ島に伝わる古い歌「Popo O Ewa」に英語の歌詞をつけたとされています。ビリー・ヴォーン楽団の演奏で有名になりました。

#### 「ヘッドライト・テールライト」

2000年から 2005年まで放送されたNHK番組「プロジェクトX」のエンディングテーマとして、中島みゆきが作詩・作曲した名曲。番組の人気とともに歌も有名になりました。

#### 「帰れソレントへ」

1902年、ソレントを訪れた、時のイタリア首相をもてなすために作られたナポリ民謡（カンツォーネ）。ソレントはアマルフィー海岸に面した大変美しい港町です。（星 賢太郎）



【編曲者】丸山 美雄（はるお）

早稲田大学教育学部昭和42年卒 東京生まれ、通称まるちゃん。小学、中学時代から音楽（特にコーラス）に親しんできたが、元来のスポーツ好きが昂じ、高校時代はラグビーに熱中。大学では一転、グリークラブの学生指揮者を務める。卒業後、男声カルテット「サニー・トーンズ」を経て「ザ・ブレスン・フォー」「ホットドッグズ（3人組）」でプロ活動をする。現在はNHKカルチャーセンター講師、板橋の歌う会「二輪草」及びグリークラブOB会「倶楽部グリー」「TMW」の編曲及び指揮者をしている。コーラスならジャンルを問わずのめり込むタイプ。あらゆる分野のコーラスの譜面のアレンジ及び作曲もてがける。また、日本の古い歌謡曲にも並々ならぬ興味を示す。

## 第3ステージ 富士山

草野心平は、蛙と同じく富士山を主題に数多くの詩を発表したことで有名な詩人である。男声合唱曲を多く作曲している多田武彦は、この富士山に関する詩を5つ選んで組曲「富士山」を作曲した。組曲では、詩集で構成された表出順とは異なる配置で曲順が構成される例が多々見られるが、この「富士山」では作品番号と曲順が順行している。詩集を読み進むに連れ、読者が心の中に富士の姿を構築して行くように、作曲者は詩集の中から抽出した詩の流れに沿って、富士が与えるイメージを立体的な音像の音楽へと展開している。

作曲者は、霊峰富士を表すために、男声の音域を最大限まで使用して作曲している。

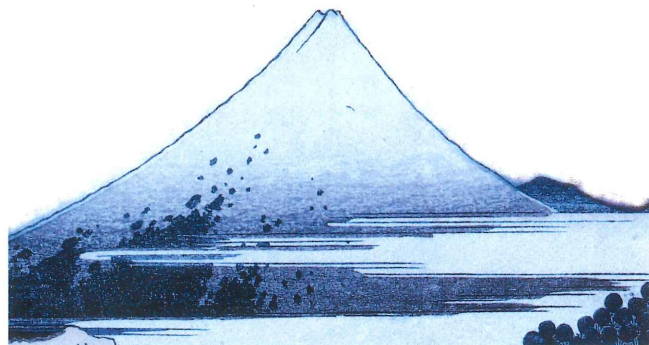
一曲目の作品第壹 (1) は富士を訪れる春を幻想的な風景として描いている。

二曲目の作品第肆 (4) は春の川端の土堤に憩う詩人が目にした、近景の動的な風景と遠景の静的な富士を対比している。

三曲目の作品第拾陸 (16) は茨城県牛久から見た富士の様子から始まり、猛烈な勢いで富士にズームアップして行く。牛久に居ながら圧倒的な存在を感じる富士を、作曲家はオクターヴの斉唱で締めくくる。

四曲目の作品第拾捌 (18) は富士を取巻く情景を通して、その大きな存在を暗示している。

終曲の作品第貳拾壹 (21) は平野すれすれに広がる雨雲を突抜けて聳える富士に、裾野に降る雨と宇宙から来る宇宙線が天の恵みの様に富士へと降注ぐ。(詩人の時代に宇宙線は然程有害と思われていない)  
(小林祥郎)



### 指揮者紹介

#### 小林 祥郎

早稲田大学入学後、即グリークラブに入団。在学3年次に手塚幸紀氏に指揮法を師事。4年次に25日間にわたり初の海外遠征となるドイツ・イスラエル演奏旅行を行い、藤原義久作曲「四つの祈りの歌」および黒人霊歌のステージを振る。1980年から故佐藤功太郎氏を常任指揮者とする合唱団に参加し、団員活動のかたわら氏の薫陶を受け、バッハ等バロック期の曲を中心に団内指揮者として練習を担当。退団後も団の依頼を受け不定期に練習を担当した。OB活動では、2002年の日中国交正常化30周年記念行事にグリーOB有志で参加した浙江大学との交流演奏会を皮切りに、2003年から新生なった東京稲門グリークラブに参加し現在に至る。



#### 佐藤 拓

早稲田大学第一文学部卒業。卒業後イタリアに渡り Maria G. Munari 女史のもとで声楽を学ぶ。World Youth Choir (世界青少年合唱団) の日本代表としてヨーロッパ、南アフリカを周った。帰国後合唱歌手、合唱指揮者として活動を始める。現在古楽アンサンブル「コントラポント」、Japan Chamber Choir のメンバー、日本ラトビア音楽協会合唱団「ガイスマ」指揮者。少人数のアンサンブルに特に力を注ぎ、歌譜喜、laulaula、The Cygnus Vocal Octet といったプロフェッショナルなグループでは1人1声によるアカペラのサウンドを追及している。また劇団 NAKED (主宰: 對馬香) のオリジナルミュージカル『STAGE』『HOPE』にキャストとして出演。2013年、The Cygnus Vocal Octet として宝塚国際室内合唱コンクールで金賞・総合2位を受賞した。声楽を捻金正雄、大島博、森一夫、古楽を花井哲郎の各氏に師事。



## 第4ステージ マリツァをめぐる男たち～『伯爵令嬢マリツァ』より

### 《ものがたり》

マリツァは若くして両親を亡くし、ハンガリーの田舎に領地のある伯爵家をひとりで守っています。独り身の彼女に寄ってくる男たちは、誰も彼女の財産目当て。本当の恋を夢見るマリツァに、ある日ジプシーの占い師が予言を囁きます。

「愛する人はすぐそばに。あなたの近くに現れる」

マリツァの領地にある農園の管理人として、一人の男が新しく雇われました。タシロというその男は、いつも寂しそうな眼をしていました。実はタシロはヴィッテンブルグ伯爵家の一人息子で、父親が多額の借財を残して死んだために、身分を隠してここで働くことになったのです。

（「陽が沈み夜になり」）

マリツァはジプシーが予言した男と燃えるような恋がしたいと願いますが、どこにもそのような男は現れません。

（「聞こえるジプシーヴァイオリン」）

言葉巧みに云い寄る男たちの目当てはマリツァのもつ伯爵家の財産。彼女は笑ってごまかします。

（「行こう！ヴァラシュディン」）

そんな男たちの様子を、タシロは冷ややかに農園から見つめています。かつてウィーンの社交界でチャールダーシュの騎士と異名を取った伊達男も、今では雇われる身。ジプシーヴァイオリンの物悲しい音色だけがその心の叫びを語ってくれます。

（「さあ、ジプシー！」）

タシロの心の叫びを物陰から聞いていたマリツァは、彼に興味を抱きます。もしタシロが管理人でなかったら！もし私が貴族でなかったら！立場を忘れて、二人は心惹かれあいます。

（「どうかこたえて」）

二人の思いが重なり合ったかと思われたその時、タシロの持っていた一通の手紙が手から落ちます。それは、タシロがウィーンに住む友人に宛てたもので、彼が本当は伯爵であることや、農園で働くのには隠された目的があることを知ります。騙されたと思ったマリツァは怒りに任せて……

（「フィナーレ」）

（角 岳史）

### 《演出にあたって》演出：角 岳史

カールマンの『伯爵令嬢マリツァ』は、本来は何人ものソリスト、合唱、バレエを伴うグランドオペレッタです。今回はマリツァを演じるソリスト一人と男声合唱という、ちょっと変わったスタイルでご覧いただきます。恋がしたくても出来ないマリツァの心のフィールドに、相手役のタシロや様々な男たちが現れるという構成を考えました。音楽が心の機微を見事に描いた傑作オペレッタの世界を、ほんの少しですがお届けできたら幸いです。

### ジプシーの予言

「空の月消える前に  
心に愛が芽生える  
愛する人すぐそばに  
あなたの近くに」  
「素敵な男が  
貴族にして騎士が  
あなたの心を癒してくれる」  
「愛する人すぐそばに  
あなたの近くに」





ソプラノ  
**湯浅 桃子**

確かな歌唱テクニックと艶やかな舞台容姿で注目のソプラノ。東京芸術大学および同大学院修了。第55回全日本学生音楽コンクール声楽部門大学・一般の部第1位。日本放送協会賞ならびに都築音楽賞受賞。文化庁による派遣でアメリカ合衆国ボストンにて研鑽を積み、ピーター・エルヴィンス・ヴォーカル・コンペティション第2位、ロンジー音楽院コンペティション・オーナーズ賞受賞。第79回日本音楽コンクール声楽部門にて第3位受賞。

これまでに『コシファントウツテ』デスピーナおよびフィオルディリージ、『魔笛』夜の女王、東京のオペラの森『タンホイザー』（小澤征爾指揮）牧童、『愛の妙薬』アディーナ、『子供と魔法』お姫様、『ドン・カルロ』天よりの声などで活躍。本年11月『チャールダーシュの女王』（二期会/日生劇場）にシュターズィ役で出演予定。二期会会員。



ピアニスト  
**野間 美希**

国立音楽大学音楽学部器楽学科ピアノ専攻卒業。下田直子、八代安子、小島満里の各氏に師事。

主に声楽の伴奏者として活動し、コンサートやリサイタルに多数出演。また、(財)日本オペラ協会や(財)日本オペレッタ協会、東京オペレッタ劇場等、オペラ、オペレッタの公演にピアニストとして多数参加。近年には、赤坂ACTシアターのグランドオープニング「祝祭音楽劇トゥーランドット」(宮本亜門演出、久石譲作曲)や「サンデー・イン・ザ・パーク・ウィズ・ジョージ」(宮本亜門演出)をはじめとして、クラシックの他にミュージカルの公演にもピアニストとして関わっている。



ヴァイオリン  
**長野 充**

ヴァイオリンを小林健次氏に師事、日本ドイツフィルのコンサートマスターを務める。後にオリジナル楽器によるバロック音楽に興味を持ち、バロックヴァイオリンを宇田川佳子、渡邊慶子各氏に師事。国内外の古楽音楽祭に参加し、エンリコ・ガッティ、ルーシー・ファンダール、ジュディ・ターリング氏らの著名な演奏家の指導を受ける。現在、バロック音楽を中心にソロ、アンサンブル活動を積極的に行なっているほか、東京都公認ヘブナーチスト「アコースティック10」として、ギターとのデュオで幅広い音楽ジャンルをカバー。ブラビシモ・クラシカ2001古楽部門ファイナリスト賞受賞。



訳詩・台本・演出  
**角 岳史**

島根県出身。東京学芸大学芸術課程音楽科卒業。指揮と作曲を学ぶ。1995年よりウィーンに留学し研鑽を積む。1996年より2009年まで日本オペレッタ協会指揮者として『こうもり』『メリー・ウィドウ』をはじめ数多くのオペレッタに携わるほか、モーツァルトやヴェルディ、プッチーニのオペラから劇団四季『オペラ座の怪人』ロングラン公演まで様々なジャンルを指揮。

2009年より東京オペレッタ劇場音楽監督として、オペレッタ公演のプロデュース、指揮の他、演出、日本語訳詞なども手がけている。主な演出作品は『カルメン』『椿姫』『こうもり』『メリー・ウィドウ』『天国と地獄』『魔笛』『ボッカッチョ』など。

指揮を井崎正浩、湯浅勇二、松尾洋子、ルドルフ・ビーブル、ヴァラディ・カタリンの各氏に師事。



編曲  
**向川原 慎一**

早稲田大学第一政治経済学部(グリークラブ学科?)卒業。在学中は学生指揮者、パートリーダーを務め、この頃からのご縁で小林研一郎氏に師事。卒業後も長年にわたり合唱指揮・指導を続け現在7団体の指揮者、及び文化センターの講師を務めている。指導している団体用の編曲のみならず、特殊な編成や事情に合わせた依頼による室内楽や合唱の編曲も多数。混声合唱のための「トスティ歌曲集」と「ジプシーの歌」がカワイ楽譜から出版されている。また歌曲を中心とした作曲活動では、金子みすゞの一連の詩に取り組み、これまでに数十曲の独唱曲と女声合唱曲を作曲。その一部は2枚のCD録音と楽譜にして発表している。2007年には奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門中田喜直賞の部で、谷川俊太郎の詩「はる」に作曲した作品が最優秀賞を受ける。



東京稲門グリークラブ ヴォイストレーナー  
**宇野 徹哉**

京都市立芸術大学・ベルリン芸術大学卒業。留学中に一時帰国し日生劇場オペラ公演「魔笛」でザラストロ役を演じ絶賛を浴びた他、二期会や新国立劇場主催のオペラ公演に多数出演。また「メサイヤ」「マタイ受難曲」等の教会音楽や「第九」の演奏会に多数出演。合唱指導の分野でも意欲的に活動し、現役声楽家ならではの発声指導やその実践指導を行ない高い評価を受け、関係団体は10団体を数える。現在、洗足学園音楽大学講師、二期会会員。

## 東京稲門グリークラブ 団紹介

東京稲門グリークラブ(TTGC)は、早稲田大学グリークラブ(早稲グリ)の卒業生が集まる男声合唱団です。平成14年に発足、**毎週火曜日夜に練習**しており、隔年に定期演奏会を開いています。また、早稲グリOB会の行事や演奏会に中心的に参加するほか、各地稲門会の総会や演奏会等の行事にも出演していますのでご計画があればぜひご相談ください(連絡先:tokyotomonglee@yahoo.co.jp)。

昨年2月には、2009年夏の「台湾演奏旅行」に続き、インドネシア共和国の2都市にて海外演奏会を行いましたのでその模様をご紹介します。

2013/2/9 東京稲門グリークラブ&ジャカルタ・メールクワイヤー Joint Concert

会場:ジャカルタ市 Usmar Ismail Hall

主催:ジャカルタ稲門会

共演:ジャカルタ・メールクワイヤー ジャカルタ・サザンクロス&コールムティアラ

2013/2/11 "Harmony of Culture" (Collaboration Concert)

会場:バンドン市 Parahyangan Catholic University (PCU:パラヒャンガン大学) ホール

主催:東京稲門グリークラブ PCU

共演:PCU 合唱団 (Unpar Choir)

当団演奏:「日本民謡」「アラカルト(邦人作曲家作品 J-Pop 他)」

現地では在ジャカルタ日本人の皆様やPCUの学生さんが暖かく迎えて下さり、交歓会も行われとても充実した旅行となりました。多くの方々にお世話になり感謝申し上げます。また、中心となって種々お手配戴いたジャカルタ稲門会の阿部会長様、ジャカルタ・メールクワイヤー指揮者の川西様、PCU学生の皆様、ありがとうございました。正直、現地特有の習慣やスコール等の天候に驚かされ、風土・食品の違いによる体調不良を起こした者もいましたが、そこは人生百戦錬磨のオッサン達のこと、「郷に入りては…」の精神で、むしろそれらを楽しんだようです。団員の一部は引き続きバリ島へ渡り、島内観光やボロブドゥール遺跡観光でリフレッシュしました。以下に写真で紹介します。



ジャカルタ演奏会 東京稲グリのステージ風景。



バンドン演奏会 東京稲グリのステージ風景。

インドネシア  
演奏旅行より



ジャカルタ演奏会場入口。  
看板を色鮮やかに飾るのはすべて生花です、驚き!



ジャカルタ稲門会阿部会長(右)と熊谷幹事長。



バンドン演奏会ステージ風景。  
Harmony of Culture (文化の調和) がテーマです。



ジャカルタ演奏会出演のメールクワイヤーほかのみなさん達と。



バンドン演奏会で共演した PCU 合唱団の皆さん。  
民族音楽を昇華させた素晴らしい演奏でした。